



2026年3月期 第1四半期決算短信 (日本基準) (連結)

2025年7月30日

上場会社名 ブロードメディア株式会社
コード番号 4347 URL <https://www.broadmedia.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
(氏名) 橋本 太郎
(氏名) 押尾 英明
TEL 03-6439-3983

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	3,924	△6.5	244	7.8	254	3.8	133	41.7
2025年3月期第1四半期	4,197	18.0	226	△37.1	245	△37.9	94	△66.2

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 128百万円 (22.7%) 2025年3月期第1四半期 105百万円 (△62.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	18.72	—
2025年3月期第1四半期	13.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第1四半期	10,081	5,214	43.7	618.74
2025年3月期	11,300	5,780	41.0	649.95

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 4,408百万円 2025年3月期 4,631百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期 (予想)	—	0.00	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	16,400	5.6	1,100	55.6	1,100	53.0	850	153.7

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期1Q	7,500,000 株	2025年3月期	7,500,000 株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	374,861 株	2025年3月期	374,741 株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期1Q	7,125,226 株	2025年3月期1Q	7,228,843 株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等の注記)	11
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当社グループは、前期において「メディアコンテンツ」セグメントで行っていたサービスを事業譲渡いたしました。それに伴い、当第1四半期連結累計期間より、「メディアコンテンツ」を廃止し、報告セグメントの区分を「教育」「スタジオ・プロダクション」「放送」「技術」「その他」の5つのセグメントに変更しております。

また、当社グループは、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの業績をより適切に把握するため、セグメント間取引の消去額を「調整額」として表示し、セグメントごとの経営成績はセグメント間取引消去前の金額で記載することといたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間との比較・分析は、変更後の数値に基づいております。

当第1四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ273,012千円（6.5%）減少し、3,924,376千円（前年同期は4,197,388千円）となりました。「技術」が増収となったものの、「教育」「その他」等が減収となりました。また、前年第3四半期に「メディアコンテンツ」を事業譲渡したことにより、売上高は減少いたしました。

営業利益は、244,390千円（前年同期は226,618千円）となりました。「教育」が減益となり、「その他」が損失を計上した一方で、「技術」は増益となり、「スタジオ・プロダクション」は損失を縮小いたしました。また、営業損失を計上していた「メディアコンテンツ」を事業譲渡したことが利益改善に影響し、営業利益は増益となりました。

経常利益は、254,288千円（前年同期は245,024千円）となりました。営業利益が増加したこと等により、経常利益も増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、133,378千円（前年同期は94,112千円）となりました。（株）釣りビジョンにてスタジオ撤去による固定資産除却損30,820千円を特別損失に計上した一方で、経常利益が増益となったことに加え、前年第3四半期から（株）div及び（株）divxにグループ通算制度が適用され、法人税等が減少したこと等により大幅な増益となりました。

（2025年6月30日現在）

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
教育	通信制高校	・イーラーニングシステムを利用した広域通信制高校 「ルネサンス高等学校グループ」（「ルネサンス高等学校」 「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」）の運営	—
	日本語教育	・日本語教師（登録日本語教員）養成講座・外国人向け日本語研修を提供する「ルネサンス日本語学院」の運営	—
	AI・プログラミング教育	・プログラミングスクール「テックキャンプ」「テックキャンプ高等学院」等の運営	（株）div
		・IT業界特化型転職支援サービス「divエージェント」等の運営	（株）divキャリア
スタジオ・プロダクション	制作事業	・日本語字幕・吹替、聴覚障がい者向け字幕、視覚障がい者向け音声解説、番組宣伝等の制作	—
放送	釣り専門チャンネル	・衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給 ・映像の受託制作	（株）釣りビジョン
	釣りビジョンVOD	・「釣りビジョン倶楽部」の運営 ・動画コンテンツ提供事業者向けの釣りコンテンツの提供	
技術	アカマイサービス	・「WAFサービス」等のサイバーセキュリティサービスの提供 ・コンテンツを最適な形で配信する「CDNサービス」の提供	—
	クラウドソリューション	・通信事業者・IPTV事業者・CG制作会社等へのクラウドゲーム配信技術の提供 ・3DCG配信サービス「G-cluster XR」の提供	Oy Gamecluster Ltd.
	デジタルシネマサービス	・配給会社へブロードメディア®CDN for theater（DCP配信サービス）の提供 ・映画館へ上映システムの設計、販売、レンタル及びメンテナンスサービスの提供	—
	ホスピタリティ・ネットワーク	・ホテルの客室・会議室へのインターネットサービスの提供、機器の監視及び保守サービスの提供	—

セグメントの 名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
技術	DX・システム開発	・設計からソフトウェア開発、保守運用までワンストップのシステム開発の提供	システムデザイン開発㈱
		・AI技術を活用したソフトウェア開発及びソリューションの提供	㈱divx
	その他ソリューションサービス	・グローバルに展開されたプライベートネットワーク「Aryaka」等の提供 ・画像解析技術を駆使した小売業向け次世代型AIソリューション「Vue.ai」の提供 ・CM素材をオンラインで搬入する「CMオンラインサービス」の提供	—
その他	eスポーツ推進事業	・プロeスポーツチーム「CAG OSAKA」の運営 ・eスポーツ関連イベントの企画・運営	ブロードメディアeスポーツ㈱
	ゲームパブリッシング事業	・Nintendo Switch向けのゲームソフトやVR専用ソフト等の企画・開発・販売及び配信	㈱ポケット
持分法適用関連会社（注）		・全テレビ番組録画機の企画・製造・販売、及びテレビ番組ソーシャルサービスの運営	ガラボン㈱

（注） 「持分法適用関連会社」に含まれる事業は、報告セグメントには含まれておりません。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント別の経営成績は次のとおりであります。

①教育

「教育」セグメントは、「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」の広域通信制高校（ルネサンス高等学校グループ）の運営、日本語教師（登録日本語教員）養成講座・外国人向け日本語研修を提供する「ルネサンス日本語学院」の運営、プログラミングスクール「テックキャンプ」「テックキャンプ高等学院」等の運営、及びIT業界特化型転職支援サービス「divエージェント」等の運営を行っております。

売上高は、前年同期と比べ109,546千円（6.6%）減少し、1,552,111千円（前年同期は1,661,658千円）、営業利益は299,200千円（前年同期は378,614千円）となりました。

通信制高校事業は、大阪校の在籍生徒数が増加したものの、その他の2校の在籍生徒数が減少したことや、人件費や広告宣伝費が増加したこと等から減収減益となりました。日本語教育事業は、「ルネサンス日本語学院」の受講生が増加したこと等から増収となり、黒字を計上いたしました。

AI・プログラミング教育事業は、（株）divが広告宣伝費を抑制したことにより「テックキャンプ」の売上が減少した一方で、人員体制の見直しやオフィス縮小等の固定費の削減に努めたこと等により損失が縮小いたしました。これらの結果、「教育」セグメントは減収減益となりました。

②スタジオ・プロダクション

「スタジオ・プロダクション」セグメントは、海外の映画及びテレビ作品の日本語字幕・吹替制作、聴覚障がい者向け字幕制作、視覚障がい者向け音声解説制作、番組宣伝等の制作を行っております。

売上高は、前年同期と比べ3,538千円（1.0%）減少し、357,308千円（前年同期は360,846千円）、営業損益は21,606千円の損失（前年同期は36,320千円の損失）となりました。

吹替制作において受注が減少し減収となった一方で、前期に減損処理を行ったこと等によりコストが減少し、損失が縮小いたしました。

③放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、BS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供給事業、マルチデバイス向け動画配信サービス「釣りビジョンVOD」の視聴が可能な「釣りビジョン倶楽部」の提供等を行っております。

売上高は、前年同期と比べ20,697千円（3.5%）減少し、564,452千円（前年同期は585,149千円）、営業利益は30,302千円（前年同期は30,898千円）となりました。

「釣りビジョン」の広告料収入が増加したことや「釣りビジョン倶楽部」が増収となったものの、減少傾向が続いている視聴料収入の減収を補いきれず、売上高は減少いたしました。一方で、コスト抑制効果等により、営業利益は前年同期と同水準となりました。

④技術

「技術」セグメントは、アカマイサービス（サイバーセキュリティサービス、CDNサービス）、クラウドソリュー

ション、デジタルシネマサービス、ホテルの客室・会議室へのインターネットサービス、DX・システム開発、及びその他ソリューションサービスの提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ118,114千円（8.6%）増加し、1,487,926千円（前年同期は1,369,811千円）、営業利益は172,080千円（前年同期は77,420千円）となりました。

主力のアカマイサービスは、既存及び新規顧客へのサービス提供が好調に推移したこと等から増収増益となりました。クラウドソリューションは、前期に自社運営のクラウドゲームサービスを終了したこと等により減収となったものの、人件費等の固定費の削減により、損失が縮小いたしました。システムデザイン開発（株）は、機材販売が減少したこと等により減収となったものの、コスト低減により損失が縮小いたしました。

（株）divxは、システム開発やアプリ開発の受託が好調に推移したことに加え、エンジニアを含めた人員の適正化やオフィス縮小等のコスト削減に努めたこと等により、黒字に転換いたしました。これらの結果、「技術」セグメントは増収増益となりました。

⑤その他

「その他」セグメントは、プロeスポーツチーム「CAG OSAKA」の運営やeスポーツ関連イベントの企画・運営、Nintendo Switch向けのゲームソフトやVR専用ソフト等の企画・開発・販売が含まれております。

売上高は、前年同期と比べ123,936千円（72.0%）減少し、48,213千円（前年同期は172,149千円）、営業損失は10,844千円の損失（前年同期は19,865千円の利益）となりました。

eスポーツ推進事業は、獲得賞金は増加したものの、スポンサー売上が減少したこと等により、売上高、営業損失ともに前年同期と同水準となりました。また、ゲームパブリッシング事業は、前年同期に発生した大型開発案件受託がなかったこと等により、大幅な減収となり、損失を計上いたしました。その結果、「その他」セグメントは減収となり、損失を計上いたしました。

（2）当四半期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

（イ）資産

流動資産は、BS放送に係る衛星利用料を前払いしたことで前払費用が増加した一方、現金及び預金が減少したこと等により、前期末に比べ1,135,685千円減少し、6,468,183千円となりました。固定資産は、長期繰延税金資産が減少したこと等により前期末に比べ82,562千円減少し、3,613,610千円となりました。これらの結果、総資産は、前期末に比べ1,218,248千円減少し、10,081,794千円となりました。

（ロ）負債

流動負債は、預り金が増加した一方、前受金や賞与引当金が減少したこと等により、前期末に比べ603,053千円減少し、4,274,194千円となりました。固定負債は、長期借入金や長期リース債務が減少したこと等により前期末に比べ48,281千円減少し、593,518千円となりました。これらの結果、負債合計は、前期末に比べ651,335千円減少し、4,867,713千円となりました。

（ハ）純資産

親会社株主に帰属する四半期純利益133,378千円を計上した一方、配当金の支払いを行ったこと等による利益剰余金の減少や、非支配株主持分の減少等により、純資産合計は前期末に比べ566,912千円減少し、5,214,080千円となりました。これにより、自己資本比率は43.7%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べて1,133,764千円減少し、4,487,307千円となりました。

（イ）営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、マイナス364,348千円（前年同期はマイナス571,732千円）となりました。税金等調整前四半期純利益223,468千円を計上したことに加え、預り金が増加したことや売上債権が減少した一方で、前受金が減少したこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

（ロ）投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、通信制高校事業のeスポーツコースにおいてPC入替等の固定資産の取得があったこと等から、マイナス55,011千円（前年同期はマイナス63,530千円）となりました。

（ハ）財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや（株）釣りビジョンにて非支配株主への配当金の支払いがあったことに加え、借入金の返済による支出があったこと等から、マイナス712,452千円（前年同期はマイナス477,624千円）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月1日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,621,071	4,487,307
受取手形及び売掛金	1,516,459	1,356,660
商品及び製品	10,904	11,721
仕掛品	147,712	144,107
原材料及び貯蔵品	5,564	6,102
番組勘定	131,058	132,610
その他	287,788	434,384
貸倒引当金	△116,691	△104,711
流動資産合計	7,603,869	6,468,183
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	288,435	277,616
工具、器具及び備品（純額）	133,573	151,805
その他（純額）	131,039	128,470
有形固定資産合計	553,048	557,892
無形固定資産		
のれん	1,641,942	1,615,582
その他	64,138	75,816
無形固定資産合計	1,706,081	1,691,398
投資その他の資産		
投資有価証券	169,455	170,840
破産更生債権等	560,154	556,936
その他	1,262,601	1,193,354
貸倒引当金	△555,168	△556,812
投資その他の資産合計	1,437,043	1,364,319
固定資産合計	3,696,173	3,613,610
資産合計	11,300,042	10,081,794

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	510,460	510,267
短期借入金	542,004	542,004
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
未払法人税等	113,778	28,931
前受金	2,344,274	1,696,771
賞与引当金	284,442	110,068
その他	1,062,288	1,366,152
流動負債合計	4,877,248	4,274,194
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	421,817	386,316
その他	209,983	197,202
固定負債合計	641,800	593,518
負債合計	5,519,048	4,867,713
純資産の部		
株主資本		
資本金	600,000	600,000
資本剰余金	5,006	-
利益剰余金	4,450,955	4,233,078
自己株式	△433,671	△433,882
株主資本合計	4,622,291	4,399,195
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	8,755	9,384
その他の包括利益累計額合計	8,755	9,384
非支配株主持分	1,149,947	805,500
純資産合計	5,780,993	5,214,080
負債純資産合計	11,300,042	10,081,794

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）
売上高	4,197,388	3,924,376
売上原価	2,524,213	2,367,846
売上総利益	1,673,174	1,556,529
販売費及び一般管理費	1,446,556	1,312,139
営業利益	226,618	244,390
営業外収益		
受取利息	69	362
受取配当金	1	1
為替差益	13,377	-
貸倒引当金戻入額	3,750	-
持分法による投資利益	1,372	1,385
受取事務手数料	7,680	8,470
助成金収入	1,676	6,117
その他	971	718
営業外収益合計	28,900	17,055
営業外費用		
支払利息	6,127	4,509
為替差損	-	2,602
その他	4,366	45
営業外費用合計	10,493	7,157
経常利益	245,024	254,288
特別損失		
固定資産除却損	-	30,820
特別損失合計	-	30,820
税金等調整前四半期純利益	245,024	223,468
法人税、住民税及び事業税	28,620	8,314
法人税等調整額	111,985	86,946
法人税等合計	140,606	95,261
四半期純利益	104,417	128,207
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	10,305	△5,171
親会社株主に帰属する四半期純利益	94,112	133,378

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）
四半期純利益	104,417	128,207
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	596	629
その他の包括利益合計	596	629
四半期包括利益	105,014	128,836
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	94,709	134,008
非支配株主に係る四半期包括利益	10,305	△5,171

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	245,024	223,468
減価償却費	59,561	38,471
のれん償却額	26,359	26,359
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	4,550	△10,335
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△230,630	△174,374
受取利息及び受取配当金	△70	△363
支払利息	6,127	4,509
持分法による投資損益 (△は益)	△1,372	△1,385
固定資産除却損	-	30,820
売上債権の増減額 (△は増加)	△199,083	160,888
棚卸資産の増減額 (△は増加)	26,999	△14,105
仕入債務の増減額 (△は減少)	13,007	△193
前受金の増減額 (△は減少)	△544,667	△647,912
未払又は未収消費税等の増減額	△36,660	△54,975
その他	154,967	130,197
小計	△475,886	△288,929
利息及び配当金の受取額	1	4
利息の支払額	△5,728	△3,915
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△90,119	△71,508
営業活動によるキャッシュ・フロー	△571,732	△364,348
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△61,402	△38,977
子会社株式の取得による支出	△10,000	-
貸付金の回収による収入	3,750	-
その他	4,122	△16,033
投資活動によるキャッシュ・フロー	△63,530	△55,011
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の返済による支出	△51,042	△35,501
リース債務の返済による支出	△18,877	△11,675
自己株式の取得による支出	△174,913	△211
配当金の支払額	△213,717	△325,789
非支配株主への配当金の支払額	△19,073	△339,275
財務活動によるキャッシュ・フロー	△477,624	△712,452
現金及び現金同等物に係る換算差額	13,274	△1,951
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,099,613	△1,133,764
現金及び現金同等物の期首残高	5,826,271	5,621,071
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,726,658	4,487,307

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							調整額	合計
	教育	メディア コンテンツ	スタジオ・ プロダク ション	放送	技術	その他	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	1,661,358	126,937	359,822	582,623	1,298,697	167,949	4,197,388	—	4,197,388
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	300	3,000	1,024	2,526	71,113	4,200	82,164	△82,164	—
計	1,661,658	129,937	360,846	585,149	1,369,811	172,149	4,279,553	△82,164	4,197,388
セグメント利益 又は損失 (△)	378,614	△41,553	△36,320	30,898	77,420	19,865	428,924	△202,306	226,618

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の主な内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社（ブロードメディア（株））の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額	合計
	教育	スタジオ・プロダクション	放送	技術	その他	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,545,310	356,641	564,452	1,411,208	46,763	3,924,376	—	3,924,376
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,801	667	—	76,718	1,450	85,636	△85,636	—
計	1,552,111	357,308	564,452	1,487,926	48,213	4,010,013	△85,636	3,924,376
セグメント利益又は損失(△)	299,200	△21,606	30,302	172,080	△10,844	469,131	△224,741	244,390

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。

その差額の内容は以下のとおりとなります。

(1) 報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社（ブロードメディア（株））の管理部門に係る費用△223,978千円であります。

(2) 各報告セグメントのセグメント間取引消去額等として表示すべきものであります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更に係る事項

当社グループはこれまで、「教育」「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」「放送」「技術」「その他」の6つのセグメントに事業を区分しておりましたが、当連結会計年度より、「教育」「スタジオ・プロダクション」「放送」「技術」「その他」の5つのセグメントに変更いたしました。

この変更は「メディアコンテンツ」について、前連結会計年度に事業譲渡をしたためであります。

(報告セグメントの売上高、利益又は損失の測定方法の変更)

従来、セグメント間取引消去額等については、各報告セグメントの売上高及び損益から除いて表示をしておりましたが、当連結会計年度より、セグメント間取引消去額等は「調整額」に含めて表示することに変更いたしました。なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の測定方法により作成しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

(単位：千円)

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	1,422,886	238,471	-	-	1,661,358
メディアコンテンツ	-	40,800	85,570	566	126,937
スタジオ・プロダクション	-	359,822	-	-	359,822
放送	483,109	99,514	-	-	582,623
技術	244,016	112,470	922,526	19,684	1,298,697
アカマイサービス	-	-	897,480	-	897,480
その他	244,016	112,470	25,046	19,684	401,217
その他	2,000	165,949	-	-	167,949
合計	2,152,012	1,017,028	1,008,096	20,251	4,197,388

(注) 独自商製品等のストック収益とは、「教育」の通信制高校事業や「放送」の視聴料等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、「教育」のプログラミング教育事業や「スタジオ・プロダクション」・「放送」の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、「メディアコンテンツ」のビデオ・コミックサービスや「技術」のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、「技術」の機器販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

当第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

（単位：千円）

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	1,342,672	202,638	-	-	1,545,310
スタジオ・プロダクション	-	356,641	-	-	356,641
放送	466,886	97,566	-	-	564,452
技術	239,022	100,125	1,060,870	11,190	1,411,208
アカマイサービス	-	-	1,031,925	-	1,031,925
その他	239,022	100,125	28,944	11,190	379,282
その他	1,045	45,717	-	-	46,763
合計	2,049,625	802,689	1,060,870	11,190	3,924,376

（注） 1 独自商製品等のストック収益とは、「教育」の通信制高校事業や「放送」の視聴料等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、「教育」のAI・プログラミング教育事業や「スタジオ・プロダクション」・「放送」の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、「技術」のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、「技術」の機器販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

2 報告セグメント変更等に関する事項

当連結会計年度より、セグメント情報等に記載のとおり報告セグメントの変更をおこなっております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。